

令和4年度の文化芸術関連事業の状況

未来に向けた「あわ文化」の創造と継承

今年度においても、新型コロナウイルス感染症の影響は続いているが、「2025年大阪・関西万博」の開催や「徳島文化芸術ホール(仮称)」の開館を見据え、県民が文化芸術を体感できる事業を実施するなど、「あわ文化」の魅力を広く発信する。

○コロナ対策を講じた上での文化活動の再開

- ・3年ぶりとなる「とくしま音楽祭」の開催
- ・コロナ禍においても地域で実施される県民主体の文化活動への支援

○「あわ文化」の魅力発信

- ・「吉野川・あわ文化」を体験・体感するクルーズ船での文化施設の周遊
- ・阿波人形浄瑠璃「人形座」による国外での公演

徳島文化芸術ホール（仮称）の整備

「徳島の文化芸術の力」を結集し、更なる文化活動の促進や県内外の優れた文化芸術の鑑賞機会の創出を図るため、新たな創造・発信拠点となる「徳島文化芸術ホール(仮称)」整備を「ハード・ソフト両面」から推進。

・R3.11～R4.6 「基本設計」完了

花びら状のテラスを効果的に配置し、構造上の強度とデザイン性の高さを両立。最先端の舞台機構を備える大ホールでは、テラス席からの新しい鑑賞体験を提供し、さらに、大型壁面を活用した外部への映像発信をはじめとする「ホールの新たなあり方」などを盛り込み、街に開かれ、外から人を引き込む「新しい文化芸術施設」を具現化した。

・R4.7～R5.8 「実施設計」実施

・R4.3～R5.3 「徳島文化芸術ホール(仮称)管理運営計画」策定(予定)

開館後の羅針盤となる「管理運営計画」の令和4年度内の策定に向けて、専門家による検討委員会を立ち上げ、事業展開や運営体制、収支計画などを検討。

今後の方向性

文化は県民の心の豊かさを育み、魅力ある地域づくりにおいても大きな役割を果たすものであり、「文化の灯」を消さないよう、「アフターコロナ」「ポストコロナ新時代」に対応した文化芸術活動の創造を図るとともに、「あわ文化」の継承・発展に向けた取組みを支援する。